

# 進路通信

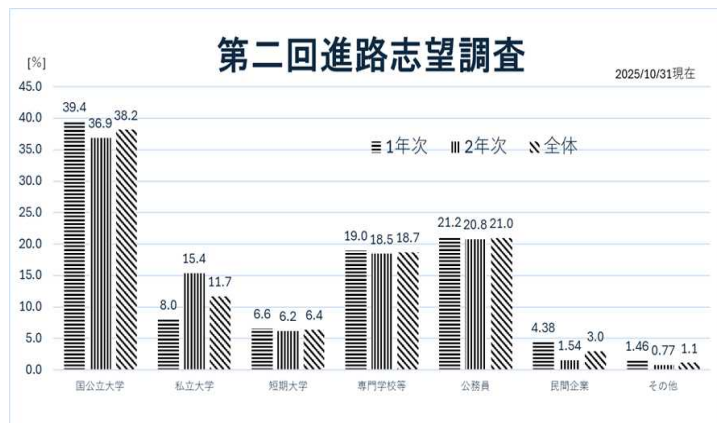
汝の理想を量につなげ

2025. 11. 11 発行

2学期期末考査が終わると、いよいよ2年次生は待ちに待った修学旅行、1年次生はインターンシップ、そして、3年次生は共通テストに向けてラストスパートです。今回は、1、2年次生の進路関係の行事について紹介します。

## 第2回進路志望調査行われる

10月、1、2年次生を対象に第2回進路志望調査が行われました。5月に行われた第1回の調査では未定が目立っていましたが、今回は進学が少し増えました。卒業後、自分は何をしたいのかを、なるべく早い時期から真剣に考えていきましょう。また、普段から、家族と進路について話す機会を作りましょう。



## インターンシップ事前指導

10月14日（火）の6、7時限目、インターンシップに向けて、ジョブカフェ青森の大瀧朋子さんから『働く意義とインターンシップの事前準備』という題で講演をしていただきました。

事業所のマナーについては、あいさつや報告の仕方など実践を踏まえてお話ししていただきました。今年度より、1年次生全員がインターンシップに参加します。今回の講演で学んだことを活かしながら、実習に臨みましょう。



## 2年次進路ガイダンス

10月23日（木）の6、7時限目、2年次生を対象に外部講師を招き、進路ガイダンスが行われました。進路志望別に、大学・短大、専門学校、公務員、一般就職のブースに分かれ、真剣に講師の話を聞いていました。その様子を紹介します。修学旅行が終わるといよいよ2年次生は3年次0学期です。各講師からの情報を自分の進路に活かしましょう。

### ＜大学・短大＞

ベネッセコーポレーションの石山育樹氏から進学についてのお話がありました。



### ＜専門学校＞

各専門学校ごとのブースに分かれ、お話を聞きました。



### ＜公務員＞

東京アカデミー青森校の福田裕美氏から、公務員試験についてお話ししていただきました。



### ＜一般就職＞

ジョブカフェ青森の大瀧朋子氏より、来年の就職活動に向けて講演をしていただきました。



## 保護者の皆様へ

第7号の進路通信を発行いたしました。今後進路に関するタイムリーな情報を発信していきますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。この進路通信がお子様と進路に関する話題提供になれば幸いです。ご不明な点は学校（進路指導部）までご連絡ください。学校代表0173-42-2066

## 「セレンディピティ (serendipity)」とは？

㊦ 坂口志文氏 生理学・医学賞、北川進氏 化学賞 受賞

皆さんはセレンディピティという言葉を知っているでしょうか？セイロンのおとぎ話を語源とし、予想外の出来事や失敗から思いがけないものを発見する能力のことです。

セレンディピティと言えば、フレミングが発見したペニシリンが有名です。フレミングだけが青カビから最初に「違和感」を感じたことでセレンディピティを引き寄せ、ペニシリンの発見に至りました。ペニシリンとは、世界で初めて発見された抗生物質です。イギリスの細菌学者フレミングは、ちょっとした不注意から細菌を培養したシャーレにアオカビを生やしてしまいます。皿いっぱい繁殖した細菌が、カビの周囲だけ消えていることに気づき、アオカビが細菌を死滅させる物質を生産していると考え、研究を始めました。そして、この殺菌作用を持つ成分「ペニシリン」をアオカビから発見し、アオカビ（ペニシリウム属）にちなんで、ペニシリンと命名しました。フレミングはペニシリンの殺菌作用に大変な価値があると確信し、その生産に乗り出しますが、ペニシリンの抽出は難しく、研究は難航しました。それから10年後、オックスフォード大学のイギリス人病理学者・フローリーと、生化学者・チェインの2人がフレミングの論文を発見し、ペニシリンの殺菌作用に注目し、その抽出を試みました。研究チームはアメリカの財団から援助を受け、1940年、ついにペニシリンの精製に成功します。そして、1941年の2月12日イギリスのオックスフォード大学附属病院が、世界で初めてペニシリンの臨床実験に成功しました。このことに由来し、2月12日はペニシリン記念日とされています。それから生産体制を整え、1943年には月に50万人を治療することが可能となりました。こうして精製されたペニシリンは、歴史上最も多くの命を救った薬の1つとなったのです。戦時中から戦後にかけて多くの命を救ったペニシリンは「奇跡の薬」とも呼ばれ、近代医学を大きく発展させました。その功績を讃えて、フレミング、フローリー、チェインの3人には1945年にノーベル生理学・医学賞が授与されています。

先日、ノーベル化学賞の受賞が決定した、京都大特別教授の北川進さんもセレンディピティを見逃さず、「金属有機構造体」(MOF)の発見を成し遂げました。MOFは脱炭素や創薬など、様々な分野での活用が期待され、私たちの暮らしを大きく変える可能性を秘めた「夢の新素材」なのです。

一流の人ほど基礎知識を大切にしています。基礎がなければ応用できないからです。皆さんは、普段どのように学んでいますか？テスト直前に必死に暗記し、テストが終わると覚えたことは忘れてしまっている人もいるのではないのでしょうか？大切なのは、何を覚えるかではなく、どう学ぶかです。学び方のコツをつかめば、これから社会に出ても勉強したことを仕事に活かせるのではないのでしょうか？高校時代は、学び方のコツをつかむ練習期間です。3年次生のこの時期になると自分の受験科目以外は勉強に身が入らずに授業中「内職」をする人、進路先の決定によって勉強に身が入らなくなる人が目につきます。

セレンディピティを引き寄せるためには、やはり普段から様々なことに目を向け、興味・関心を持ち、自分に関係ないからやらないのではなく、しっかりと高校で学ぶことが大切なのではないのでしょうか？

北川さんは「無用の用」という言葉をモットーにして研究に勤しんできたそうです。今学んでいることは無駄なことではなく、きっと今後の皆さんの人生に役に立つ時が来るはずですよ。

### 世が顔施

#### 「街」

堂本剛さんの「街」という曲がある。  
この曲は彼のシンガーソングライターとしてのデビュー曲であり、10代の頃、人の汚い部分に嫌気が差して、胸が潰れそうになった時に、東京にいる自分が故郷の奈良に残した自分の魂に語りかけるように書かれた曲である。彼は後に、東大寺でのライブで最後にこの曲を歌い、涙を流す。突発性難聴を発症し、完治できず、周りの期待に応えられない悔しさ、悲しさが込み上げ、ファンの人達にも理解してもらいたい、同時に、協力がしてくれた人、すべての人への感謝の気持ちが溢れ出た。この歌詞の中に、「**痛みだけは忘れたくないんだ**」というフレーズがあり、

彼はこの言葉を大事にしているという。久しぶりにこの曲を聞き、何だか自分に起きたことと重なって、涙が溢れてきた。

生きていけば、様々なことがある。決して良いことばかりではなく、むしろ、苦しいことや辛いことのほうがたくさん訪れる。しかし、不安で苦しい中でも、今自分ができるところを一生懸命にやってみれば、その中で、応援してくれる人もいるはずである。その時、人の優しさ、愛に触れ、人は毎日を生きていることができるのかもしれない。そして、その時の痛みを忘れず、この経験をプラスに変えることができる。自分自身の成長につながるのではないだろうかと思うのであった。

(進路指導部員 木村 美由紀)